

風のない穏やかな年明けの第2日曜日でした。冬越しをする昆虫の様子を観察することにして、開始後久しぶりにそば畑の方へ向かいました。春を思わせる柔らかな日差しの中で、初参加の兄弟の元気な声が終始響いていました。

里山の家での持ち込み観察項目：ガガイモの種

そば畑のある広場に到着するとさっそく生きもの探しが始まりました。地面には**タンポポのロゼット**がいくつも広がっていました。広場の中ほどに**マンホールのようなもの**があり、蓋の高さが地面よりも30cmほど高くなっていました。林の中に入り、アオキの葉の裏で**ウラギンシジミ**が越冬しているのを観察しました。



タンポポのロゼット



マンホール?



ウラギンシジミ

カクレミノの幹にしがみついている**タデジマカミキリ**を見ました。よく見ると左の触角が途中で欠けていました。教えてもらってもすぐには見つけることができないほど幹と一体化していました。その後参加者それぞれに冬越し中の生きものを探しました。ヒサカキの葉の隙間に**カメムシの仲間**を見つけた人がいました。



越冬中のタデジマカミキリ



タデジマカミキリの観察



カメムシの仲間

足元の倒木にはキノコが生えていました。柄のない**2種類のキノコ**は、白い方は傘の裏にはひだがなく小さい穴が無数にあき、茶色い方の傘の裏には細かなひだが見られました。そば畑のすぐ脇に**グレープフルーツ**の木があり、上の方にいくつか実がなっていました。手が届く実はなく、参加者の女の子が木に登って大きめの実を採ってくれました。食べることにして皮をむき始めると、爽やかな柑橘の香りが広がりました。そのグレープフルーツの木についていたのは、残念ながら外来種の**ムネアカハラビロカマキリの卵鞘**でした。



キノコの仲間①



キノコの仲間①の傘



キノコの仲間②



キノコの仲間②の傘



グレープフルーツ?



ムネアカハラビロカマキリの卵鞘



グレープフルーツの木そばで**モグラ塚**を観察しました。少し掘ってみました。モグラの通り道のトンネルは見つかりませんでした。周辺で春の七草を探してみると、**ナズナ**と**ハコベ**はすぐに見つかりました。



モグラ塚



ナズナ



ハコベ

タビラコの仲間を見つけた参加者がいました。春の七草の**ホトケノザ**はこれの仲間です。**ミツバ**はセリに近い仲間として紹介されました。セリは水辺に育つので、この辺りでは見られないとのことでした。ミツバにちなんで**キツネノボタン**も観察し、見た目はよく似ているがキツネノボタンには毒があるので注意が必要とのことでした。見分けるポイントとして葉や茎に細かい毛が生えていることが挙げられました。



タビラコの仲間



ミツバ



キツネノボタン

里山の家の方へ戻りながら石垣の上のシダ類を見ました。**オオウラジロ**と**コシダ**が繁茂していて、どちらも葉の裏が白く、鏡餅の正月飾りに利用されるとのことでした。その後は中道を歩き、まず**マサキ**の実を観察しました。割れた実の中から朱色の種が顔を出していました。終わりの時間が近づいていましたが、いくつかの木の芽を観察しました。**ネジキ**は去年伸びた枝の部分が赤くなっていました。**モチツツジ**は早くも新芽が伸び始めていました。**ヤマコウバシ**は枯れた葉がしっかりと枝に残り、硬い冬芽が葉の付け根にひとつずつついていました。冬芽については機会を改めてじっくり見たいという声が聞かれました。



オオウラジロ



コシダ



マサキの実



ネジキの冬芽



モチツツジの新芽



ヤマコウバシの冬芽

平和公園での観察項目(観察順): 綿毛のタンポポ、タンポポのロゼット、マンホール、排水路、ハサミムシ、ウラギンシジミ、キセルガイ、ムネアカハラビロカマキリの卵鞘、キノコの仲間、カメムシの仲間、ナンテン、タデジマカミキリ、カクレミノ、センリョウ、クズのつる、ノイバラの実、モグラ塚、ミノムシ、グレープフルーツの木、オオイヌノフグリ、ナズナ、ホトケノザ、ハコベ、ミツバ、キツネノボタン、モリチャバナネギブリ、ノビル、タビラコの仲間、ヤママユの空繭、サザンカ、ハイゴケ、オオウラジロ、コシダ、マサキの実、エノキ、ネジキの冬芽、モチツツジの新芽、コバノミツバツツジの冬芽、ヤマコウバシの冬芽